



青空に映えるコスモス

厚生協会だより

2018年9月21日
第 351 号

発行
公益財団法人
宮城厚生協会
〒985-0835
宮城県多賀城市下馬
二丁目13番7号
TEL 022-361-1113
FAX 022-361-1124
発行人：平賀秀法

2018年期理事会発足に
あたっての理事長ごあいさつ
全職員の英知を結集し、法人
の中長期的ビジョンを念頭に
おいた施策化に取り組みます

理事長 小熊 信



今期理事会では、前期理事会で経営基盤の強化を目的に提唱

された「経営構造転換5か年計画」の基本的方針と中核的施策の継承を前提に、法人の中長期的ビジョンを念頭においていきたいと思います。特に多岐にわたる施策の中でも以下の3点を重点課題と位置付けます。

「新人事賃金制度」の導入

1点目は、「新人事賃金制度」の導入です。

これまで法人では、体系的な人事制度が未整備のために、職員育成の観点で「PDCA」

的な運用が十分なされず、職員育成の立ち遅れが懸念されています。一方、現状の賃金制度では、毎年約1億円以上の人件費の増加がみられており、法人財務の経営基盤に大きく影響していくことが懸念されます。そして今後の職員の高齢化に伴う人件費の伸び率の恒常的な負荷は、直近の古川民主病院や泉病院のリニューアルはもちろんのこと、坂総合病院(全面移転)のリニューアルさえも困難にさせる可能性があります。このような状況下で法人の中長期的存立を確保していくためには、優秀な若手の人材確保と今後の人件費の抑制とを可能にする整合性の取れた新たな人事賃金制度の確立が必須です。

「働き方改革」に関する取り組み

2点目は、近年国内で問題になっている「働き方改革」に関する取り組みです。

安倍政権における大企業を重視した経済至上主義的発想に起因した「働き方改革」の施策とは一線を画して、労働者の健康と生活を守り、労基法の順守という観点で法人独自の取り組みとして「働き方

改革」を行っていきます。同時にこの施策は、経営基盤の改善にも貢献すると考えられます。

各事業所の中長期計画作成

3点目は、2025年に向けて「地域包括ケアシステム」に象徴される医療介護政策変遷に対応すべく、法人内の各事業所の中長期計画を作成することです。古川民主病院の構想の骨格は、不確実性を内包しながらも見通しが立ちましたが、泉病院は未だ構想の方向性が決められていません。今期理事会では、実践的検証を行いながら早急に泉病院のあるべき姿を検討していかなければなりません。

これらの重点的課題は、いずれも難しい問題を内包しているものの、「是(賛成)か非(反対)か」という二者択一的な結論に終わらせることなく、それぞれの本質的な課題を明確にしながら建設的な議論を通して、少しでも現状の問題が改善できるような施策を策定していくことが重要です。このために今期理事会は、さらなる職員の意識改革と多くの職員による斬新な挑戦に期待します。

4日間で約400名が来場

7月28日(土)～8月1日(水)(月曜日休館)の4日間、イオンタウン塩釜1F塩釜行政サービス・マリンプラザで開催されました。店内で偶然知って来場する人も多く、約400名が来場しました。一年前の7月7日、国連で『核兵器禁止条約』がついに採択され、また、ICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)がノーベル平和賞を受賞しました。『核兵器禁止条約』は、50ヶ国以上が批准した90日後に発効するとなっていますが、我が国政府は批准に背をむけています。今年、原爆展

ヒロシマ・ナガサキ
『原爆と人間展』inしおがま

被爆から73年、一日も早く、 国連『核兵器禁止条約』の 発効を！

坂総合病院むつみ会担当 鈴木 悦代
保健師

は、先般の歴史的な米朝首脳会談もあり、「非核化」と平和にどうつながっていくか、市民として共に考える機会になったと思います。

主催は塩釜地区被爆者の会(むつみ会)で、会を支援する原爆展準備会(坂病院、友の会平和活動専門部、つばさ薬局、事業協、新婦人、原水禁塩釜協議会、あゆみ保育園で構成)が共同で、2004年から毎年取り組んでいます。

多彩な内容・新企画

「広島の高校生が挑んだ原爆画」

展示内容は、「原爆と人間」(日本原水爆被害者団体協議会作成・むつみ会所蔵)の他、広島平和記念資料館貸出しの「サダコと折鶴ボスター」、アニメや紙芝居、DVD映像を活用。新企画で、被爆者の証言を聞きながら広島市基町高校生が描いた「原爆画」も反響がありました。

被爆者の平均年齢は82歳を超え、直接語り伝えることが年々難しくなる中、宮城県原爆被害者の会の木村緋紗子さんが被爆体験を語り、「原爆は人として死ぬことができなかった。犠牲となった人々の死を無駄にしてはならない。命ある限り核兵器廃絶を訴えていくことが生かされた自分の使命」と結びました。また、長年むつみ会を担当された神久和先生が、被爆者の人生や原爆症認定基準改定後も続く認定行政の問題等、今回も「伝承者」としてお話されました。

〈来場者の感想から
一部紹介します〉

一部紹介します

爆被害者の会の木村緋紗子さんが被爆体験を語り、「原爆は人として死ぬことができなかった。犠牲となった人々の死を無駄にしてはならない。命ある限り核兵器廃絶を訴えていくことが生かされた自分の使命」と結びました。また、長年むつみ会を担当された神久和先生が、被爆者の人生や原爆症認定基準改定後も続く認定行政の問題等、今回も「伝承者」としてお話されました。

した。これからもこの様な取り組みを続けて下さい。

(50代女性)

・個々人は戦争を望まなくても政治をする者が起こすものである。この様な写真、現実を目の当たりにすれば、いかに戦争が愚かか分かるはずだが…。被害の及ばない者の無責任の行為と思う。

(60代男性)

・戦争は絶対おこしてはいけなくと強く感じました。周囲の人たちに微力ながら訴えていきたいと心を新たにしました。

(70代男性)

・係の方のお話しが興味深かったです。次回もぜひ伺いたいです。(40代女性)

非核化にむけ、

被爆国としての役割がある

現在、『核兵器禁止条約』を批准した国は12カ国で、非核化を望む国々は努力を続けています。しかし我が国政府は、唯一の被



展示を見入る来場者



お話する神先生



被爆者木村さんの証言

爆国でありながら、核に依存し条約批准に背をむけています。一日も早い条約の発効、世界平和のために、今後も粘り強く運動を継続していくことが大切と考えます。皆様のお力添えをお願い申しあげます。

事務長に就任して

地域医療を守る一翼となるよう 努力していきたい

泉病院事務長 伊藤 恵



本年7月より泉病院事務長を拝命いたしました。これまで勤務経験がない病院となりますので、職員の顔、名前、

部署、その役割を知ること、なにより泉病院の風土文化を手探りで学んでいるところです。

開設以来36年が経過し、当初の県連脳卒中センターとしての時期、仙台北部地域の急性期を担っていた時期を経て、現在では急性期を一部維持しながら、地域連携を強める回復期で役割を果たしていること、これまでの泉病院が選択してきた歴史があります。

その歴史を背負い、今後の泉病院はどこに進路を向けて歩いていくのか、建物の老朽化も厳しい状態となっており次期構想の策定は避けて通れない課題と考えています。

2016年上期理事会から取り組んできた「経営構造転換5ヶ年計画、中長期事業計画」では、危機的な経営から黒字基調への回復、安定的な経営状況を経て、中長期の展望を作り出すことが必要となっています。泉の現状はまさに、中長期の展望を作り出せるか、経営が安定しなければ展望が見えないという境界に身を置いていると感じています。

安定的な経営を職員とともに築き、次期構想を確定できるよう、微力ながら尽力していきたいと思います。泉病院の周りには、OB・OGの方々もたくさんいらっしゃいます。

高齢者の方々も安心して住み続けられる地域に、住民の皆さんと一緒に運動を広げていくことも必要です。行政、開業医、病院、介護事業所と多くの皆さんのぜひお力を借りながら、地域医療を守る一翼となるよう努力していきたいと考えています。

今後ともよろしくお願いいたします。

坂病院や地域の方々に 恩返しできるよう励みたい

坂総合クリニック事務長 大槻 透



今年、7月より坂総合クリニック事務長を担当することになりました大槻です。よろしくお願いいたします。

簡単に自己紹介させていただきます。私は地元、塩釜出身で、1969年に坂病院で生まれています。現在も嘱託医として頑張られている広田先生にとりあげていただきました。

家庭の事情もあり坂病院には小学生の頃から毎週通い、よく院内保育園や中庭駐車場で遊んで暮らしていたことを思い出します。昔の坂病院の先輩職員の方々には大変お世話になり、家族のような関係で育てていただきました。

最近坂病院も世代交代が進み、私の子どもの頃を知る先輩の方はほとんど退職されてしまいました。最近では坂病院生まれの若い方が入職される時代になってきていることを思うと、改めて坂病院の歴史を感じる次第です。

坂病院は私立塩釜病院の創設以来、100年余の歴史があります。非営利の組織として困難を乗り越え、ここまで発展しながら世代継承してきた組織の強さは、私たちの医療観（民医連の歴史と医療観）の正しさ、これまで掲げてきた方針が大きくは間違っていないことを証明していると感じています。

私を育ててくれた坂病院や地域の方々に対し、微力ながら少しでも恩返しできるよう業務に励みたいと考えています。今後ともよろしくお願いいたします。





何事も チャレンジ!!

ケアステーションあゆみ所長

早坂 菜穂子

「ドラゴンカヌー大会」に参加

時々日常とかけ離れたことをするのは、心の活性化には大切です。

7月29日、加美町で毎年開催されている「ドラゴンカヌー大会」に参加しました。数年前に2、3回参加したことがあり、体力的にもう自分は今後参加することは無いと思っていたのですが、職場のレクリエーションとして企画されたため、チャレンジすることにしました。

ドラゴンカヌーは、10名の漕ぎ手・舵取り・太鼓の12名編成でドラゴンをかたどったカヌーでスピードを競う大会です。

私は舵取りをすることになり体力的には負担がないものの、自分の舵の取り方一つでカヌーが曲がったり転覆する危険性もある大事な役割なので内心冷や冷やでの参加でした。

大会前日の練習日に初めてカヌーに乗るメンバー達。私も係りの方に指導を受けて、舵を初めて握って操縦したのですがなかなか習得が出来ず…。何とかスタート地点に着き、蛇行運転しながらもゴール出来たという感じでした。

チームの結束感高まる

そして大会当日。雨風で悪コンディションの中みんなで気合いを入れつつ臨みました。途中、他チームの転覆を目の当たりして背筋がゾッとしましたが、ここまで来たらやるしかない！と無我夢中で戦いました。2回戦い結果は20チーム中17位の成績でしたが、転覆することなく漕ぎきり充実感と爽快感を味わうことができました。チームの結束感も高まり、数十年前に体験した部活動を思い出しました。何事もチャレンジした先には得るものがあるんですね。

日々忙しく仕事をしているなかで、普段と違う体験や、頭のスイッチの切り替え、ONとOFFを上手に使い分けて「私が私らしく」いられるようにリフレッシュしていこうと思っています。

ドラゴンカヌー、来年も参加して上位入賞でも目指そうかなあ！！



さあ、力を合わせて！



お疲れ様でした！